臺灣總督府

中央研究所農業部彙報

第七十號

人工交配による甘藷優良育成種に就て

臺灣總督府中央研究所

昭和五年一月

本彙報は嘉義農事試驗支所に於て大正十一年及同十二年人工交配により育成したる甘藷品種1,796種に對し昭和三年に至る迄數年間に亙り試驗したる結果優良と認めて選出せる數種に對する試驗成績の梗概にして是等の新品種は從來の品種に比し遙に優良の成績を擧げ得たるを以て之が普及は本島に於ける甘藷品種改良上に資するところ蓋し不尠と信じ之を印刷に附す

昭和五年一月

臺灣總督府中央研究所農業部長

農學博士　大島金太郎

臺灣總督府
中央研究所 農業部彙報　第七十號

人工交配による甘藷優良育成種に就て

目　次

一　緒　言 …………………………………… 1　35.3.0
二　優良種選擇の方法 …………………………………… 3　35.4.0
三　優良種の成績 …………………………………… 6　35.5.0
四　優良種の特徵 …………………………………… 12　35.6.0
圖　版　第一圖版―第三圖版　35.7.0

人工交配による甘藷優良育成種に就て

技師　平間惣三郎

一　緒言

臺灣に於ける甘藷は其産額大約20億萬斤（作付12萬餘甲）價額2,200萬圓内外に達し、生藷又は切乾薯（蕃薯簽）として米に次ぐ重要食糧作物なり。就中切乾薯は島内に於ける主要食糧品たるのみならず、最近工業原料として內地釀造界に主要なる位置を占め其移出年額200萬圓内外に達せんとす。更に本島に於ける內地種米增産の結果島內米穀の移出數量逐年激增の趨勢にあり。隨て島內食糧の補充として、將來本作物の需要益々多からんとす。然れども現在に於ける本島在來種は量に於ては豐産なるものなきにあらざるも、質に於ては概して不良にして之を外來の諸品種に對比すれば、品質改良の餘地多大なること次表に據て之を證し得べし。

種別	組成分（%）								品種試驗成績		
	平均數	水分	灰分	粗蛋白質	粗纖維	脂肪	澱粉	糊精及糖類	平均數	反當塊根收量	簽步留
										斤	%
本島在來種	100	75.277	1.252	1.114	0.987	0.431	19.138	1.801	100	426.971	26.59
支那種	—	—	—	—	—	—	—	—	15	539.273	24.87
沖繩種	19	68.419	1.044	1.307	0.877	0.375	25.291	2.687	17	557.910	29.28
內地種	6	64.136	1.103	1.416	0.870	0.402	27.927	4.140	25	445.678	29.79
米國種	4	63.184	1.383	1.576	1.055	0.520	29.130	2.903	7	325.893	33.11

備考　組成分は農業部農藝化學科の分析成績に據る

甘藷に對する品種改良の方法としては　(1)分型法卽ち形態分離による育種法　(2)芽條變異による育種法　(3)人工交配による育種法の3方法あるも、(1)は米麥等の系統分離と同一原理に據るものにして選出されたる新品種は實用的價値を向上すること勿論なる

も、其程度は從來其品種の具有する最も良好なる形質以上に出でざるなり。(2)は前者に比すれば特殊の性質を顯して著しく實用的價値あるものを選出する場合あるも、變異の起る機會たるや眞に偶然たるのみならず折角偶然變異を發見するも新形質必ずしも實用的價値あるものとは限らざるなり。(3)は即ち一代雜種の特徴たる「ヘテロシス」(Heterosis)の利用にして、前2法に比し新品種育成法として甘藷の如く無性繁殖を行ふものにとりては實用上效果尠からざるのみならず、遺傳學の應用上又興味ある問題なりとす。

然るに從來是等に就き研究の歩を進めたるもの甚だ稀にして著者の知り得たる範圍内に於ては、往年布哇農事試驗場等に於て實生甘藷を育成したる記録あるの外は Virgin Islands Agricultural Experiment Station, U. S. A. 及沖繩縣島尻郡に於ける農林省委託甘藷生産改良試驗地に於て實施しつゝあるに過ぎず。尤も本作物の開花は氣候に支配せらるゝ故、何れの地に於ても實施可能なるにあらざるなり。

幸に本島に於ては開花結實良好にして人工交配に由る新品種の育成至難ならず、隨て本事項に關する試驗研究は尠くも臺灣の如く甘藷を常食とする地方に於ては極めて有意義にして實用上效果尠からざる事項たるを失はず。

本彙報は大正十一年及大正十二年の兩年に亘り、品種改良の目的を以て在來種及外來種相互間に人工交配を行ひ、育成したる新種1,796種中試驗の結果優良と認めて選擇せる數種に對する成績の梗概にして(詳細は中央研究所農業部報告第四十四號及第四十六號甘藷交配育成種試驗成績其一、其二參照)本島に於ける甘藷地方品種の改良上資料たるを得れば幸甚なり。

二　優良種選擇の方法

甘藷は通例無性繁殖を行ふものなるが故に、人工交配により初め若干の種子を得て實生新品種を育成すれば、其後は之を無性的に繁殖して多數の同一品種を養成すること容易なるが故に、一代雜種の「ヘテロシス」を利用するに最適の作物なり。即ち初年目に於て收量多き數品種と品質優良なる數品種相互間を交雜せしめ、其得たる種子より多數の雜種第一世代植物を育成し、其兩親より受けたる禀性が兩親又は其他の良品種に比し實用的價値に富むものゝみを選擇すれば、玆に優良新品種の若干を創造し得る理なり。但作物の質又は量的表現は其禀性に對する外界要素の反應なるを以て、年により多少の差異を生ずる自然要素に對する新品種の質又は量的表現の比較の如きは、尠くとも數年に亘りて試査するにあらざれば妥當なる選擇をなし能はざるなり。されば優良種選擇の方法としては先づ次の順序に準據せり。

(1)	初年目	人工交配
(2)	二年目	實生育成及淘汰選擇
(3)	自三年目 至五年目	比較試驗即ち育成品種と母本、父本若くは既存の優良品種との比較(試驗成績の考査により尙一、二年繼續の要あることあり)
(4)	六年目	優良種選擇及增殖(比較試驗繼續年數延長するときは自然順延す)

(1)人工交配　十月より翌年二月に亘りて開花するを以て、午後に除雄し翌午前授粉す。約1箇月乃至1箇月半にして子實完熟するを以て採種の上貯藏し播種用に供す。

(2)實生育成及淘汰選擇　種子は其儘播種すれば硬粒多く發芽不整一なるを以て、先づ「リーベンベルヒ」氏發芽試驗器に置床し水濕を

吸收して膨大せるものは其儘、然らざるものは種皮の一部に破傷を與へ素燒の植木鉢に播種す。播種期は三、四月の候を適期とす。播種後2箇月內外にして草丈1尺4、5寸に伸長するを以て1尺內外に採苗し露地苗床に移植す。斯くすること數回反覆すれば九月植付適期に至るまでには1粒の種子より10本以上の苗を養成することを得。一系の植付株數10株、植付後滿6箇月餘を經て翌年三月頃收穫す。

淘汰は最初圃場に於ける肉眼鑑定により施行す。

1. 收量の尠きもの
2. 品質の不良なるもの

上2項に該當するものは直に之を淘汰し、其他のものに就き次の調査を施行す。

1. 塊根一株平均個數及最多最少個數
2. 塊根一株平均重量及最多最少重量
3. 生莖葉一株平均重量
4. 形狀の良否
5. 製簽步留(%)
6. 病蟲害の有無

以上の諸項目に亙りて優劣を比較對照し、實用的價値に富むものゝこを嚴選して次年度試驗用に供す。

(3)比較試驗卽ち育成品種と母本、父本、若くは旣存の優良種との比較　前年嚴選したる系統の種藷を四月頃種伏し、苗を養成して八、九月の適期に挿植す。一系に對する試驗面積は10坪3區若くは6坪區3區制とし、之に標準區(白和蘭)及比較區(父母兩本及旣存の優良種)を適當に配列して優劣比較の便に供せり。肥料は反當堆肥200貫、大豆粕10貫、過燐酸石灰10貫、硫酸加里5貫を標準とす。年により綠肥施を用し堆肥、其他の用量を加減せしことありしも、反當施肥の所

含三要素量は概ね窒素2貫、燐酸2.500貫、加里3貫匁を標準とせり。堆肥及大豆粕は基肥とし、過燐酸石灰及硫酸加里は追肥として、中耕培土の際之を施せり。畦幅4尺の高畦に株間1尺の距離に挿植し、中耕培土各1回、蔓返しは2回乃至3回、除草は適宜之を行へり。生育日數180－200卽ち三月中下旬頃に至りて收穫す。調査項目は

1. 塊根收量（上藷、屑藷、合計）
2. 生莖葉收量
3. 總收量に對する塊根及生莖葉百分率
4. 塊根個數（上藷、屑藷、合計）
5. 一個平均重量
6. 簽步留（%）
7. 乾物量（%）
8. 簽生產量（實數及標準區又は比較區對指數）
9. 乾物量生產量
10. 食　味
11. 簽品質
12. 特　徵
13. 病蟲害の有無

自三年目至五年目（比較試驗自第一回至第三回）3箇年間(年により尙一、二年繼續の要あることあり)以上の諸項目に亙りて優劣を比較し、累年成績其他を斟酌し、平均成績に據りて最後の嚴選を施行す。但比較試驗第一年目に於ては以上諸項目の比較の外、形質に關する遺傳力の强弱等をも考慮し、不良系統を淘汰して出來得る丈試驗實行上の冗費を省くことに努めたり。

(4) 優良種選擇增殖　試驗續行中障害なくば6箇年目にして最後の選擇をなし得るなり。卽ち新品種として選擇の價値あるものは、從來の成績父母兩本のそれに優るは勿論旣に普及の優良種に比し何等

かの點に於て優良たるものたらざるべからず。單に成績にあらはれたる事項のみに就て優秀なりとも、直に選擇をなし能はざるものあり、例へば塊根の收量多く簽の步留高くして簽生產量頗る多き系統ありとも、其肉色紫紅色なるため製品の色澤極めて不良なるは製簽用品種として選擇し能はざるが如き、又收量多く食味佳良なるも其形狀塊瘤狀にして極めて不整一なるは食卓用としての價値殆どなきが如し。卽ち本彙報所載の大正十一年及十二年育成の交配種 1,796 種中試驗の結果單に成績にあらはれたる數字のみに就ては優良と認むるもの十餘種に上るも、前記の如き事項を考慮し大正十一年育成種559系中より臺農一號、臺農三號、臺農九號、臺農十號の 4 品種を選擇し、大正十二年育成種 1,237 系中より臺農十三號及臺農十四號の 2 種を選擇せり。而して是等 6 種の成績及特徵に就ては項を更めて概記せんとす。

三　優良種の成績

選擇せる優良種の成績を對照するに、塊根收量に於ては標準區及比較區のそれと大差なきも（標準區は從來の品種試驗の結果成績最良なりし白和蘭種を使用し比較區としては簽用品種として南部地方に栽培多き青心尾種を使用せり。兩種共全島に於ける作付一萬甲步以上に達す。）品質卽ち簽步留其他に於ては著しく向上し、結局簽生產量を對比すれば標準區白和蘭種を 100 とせる指數124—152、比較區青心尾種を 100 とせる指數134—167の良成績を示したり。次に嘉義農事試驗支所に於ける平均成績及各地に於ける成績の梗概を表示せん。

平均成績

（一）

品種名	塊根收量			生莖葉收量		
	甲當	反當	順位	甲當	反當	順位
	斤	貫		斤	貫	
臺農一號	45,263	740.493	3	12,731	208.277	7
同　三號	39,566	647.297	5	8,976	146.850	8
同　九號	45,874	750.500	2	22,422	366.487	2
同　十號	46,533	761.273	1	19,623	321.027	4
同　十三號	44,417	726.655	4	21,443	350.800	3
同　十四號	34,679	567.350	7	23,381	382.513	1
標準區白和蘭	33,643	550.400	8	17,732	290.500	5
比較區青心尾	34,842	570.020	6	15,698	259:060	6

備考　臺農一號、同三號、同九號、同十號及標準區白和蘭は大正十三年—十五年 3 箇年平均、臺農十三號及同十四號は大正十四年—昭和三年 4 箇年平均、比較區青心尾は大正十四—十五年 2 箇年平均なり。以下同斷。

（二）

品種名	塊根個數		上諸一個平均重量	總收量對百分率	
	甲當	反當		塊根	生莖葉
	個	個	匁		
臺農一號	94,416	9,654	105	78.4	21.6
同　三號	117,008	11,964	76	81.9	18.1
同　九號	141,663	14,485	67	68.1	31.9
同　十號	154,632	15,811	63	71.0	29.0
同　十三號	130,768	13,371	84	66.7	33.3
同　十四號	122,964	12,573	70	60.9	39.1
標準區白和蘭	100,979	10,324	83	66.3	33.7
比較區青心尾	106,837	10,924	78	70.6	29.7

（三）

品種名	簽步留	簽生產量		順位	簽品質	簽生產量指數	
		甲當	反當			標準區對	比較區對
	%	斤	貫				
臺農一號	33.73	15,216	248.937	1	上の上	152	167
同　三號	35.27	13,866	226.853	5	上の中	138	152
同　九號	32.73	15,007	245.516	2	上の下	151	165
同　十號	30.73	14,305	234.637	4	上の下	144	158
同　十三號	33.66	14,902	243.793	3	上の中	146	151
同　十四號	36,80	12,990	208.248	6	上の中	124	134

品種名	簽歩留	簽生產量		順位	簽品質	簽生產量指數	
		甲當	反當			標準區對	比較區對
	%	斤	貫				
標準區白和蘭	30.20	10,081 (10,982)	164.926 (173.526)	7	中の上	100	110
比較區青心尾	26.25	9,095 (9,996)	148.791 (163.537)	8	中の中	98	100

備考

（一） 括孤內の數字は大正十四—昭和三年４箇年間の平均成績にして、臺農十三號及臺農十四號に對する指數は之に據りて算出せり。以下同斷。

（二） 簽歩留は甲、乙、丙３區より各生藷500瓦宛を採り之を細切して亞鉛板製乾燥皿にて陽乾し毎日秤量し２回以上重量略ぼ等しきを度として３區の平均を求め、之を百分率に換算し尙各年の平均を換算せり。

（四）

品種名	乾物量			乾物量指數		食味
	百分率	反當收量	收量順位	標準區對	比較區對	
		貫				
臺農一號	31.13	229.633	1	154	179	上の下
同　三號	31.93	205.095	5	136	162	上の中
同　九號	29.66	222.425	3	150	176	上の下
同　十號	28.39	216.077	4	145	171	中の上
同　十三號	30.60	228.158	2	157	197	上の下
同　十四號	33.96	196.975	6	135	174	上の下
標準區白和蘭	27.52	150.005 (149.858)	7	100	118	中の中
比較區青心尾	23.76	126.642 (117.584)	8	82	100	下の中

備考　乾物量百分率は簽歩留調査に使用せし試料各20瓦宛を採り、之を秤量管に入れ火力乾燥器にて數日間乾燥し重量恒量となれるを度とし各年の平均を算出せり。

各地成績

（一） 塊根收量（甲當） 斤

地名	臺農一號	臺農三號	臺農九號	臺農十號	臺農十三號	臺農十四號	標準區白和蘭	比較區青心尾
嘉義支所	45,263	39,566	45,874	46,533	44,417	34,679	33,643	34,842
農業部	34,841	36,149	29,085	36,110	—	—	34,352	34,842
臺南	38,529	36,822	27,298	42,841	—	—	38,215	—
高雄	54,019	58,148	58,215	46,974	—	—	66,962	39,756
臺北	—	20,559	24,352	19,951	—	—	49,438	49,371
宜蘭	—	26,589	22,491	19,805	—	—	21,826	30,138
溪口	23,566	24,450	30,819	24,230	—	—	11,064	24,450
民雄	28,200	26,400	28,200	28,200	—	—	37,800	33,000
舊南港	43,100	50,360	53,670	47,160	—	—	48,000	40,000
湖底	30,074	27,433	39,756	33,154	—	—	—	35,941
後潭	25,819	23,179	36,382	25,232	—	—	27,580	—

備考　地名は次の略字による。以下同斷。

嘉義支所…………中央研究所嘉義農事試驗支所
農業部…………中央研究所農業部
臺南…………臺南州立農事試驗場
高雄…………高雄州立農事試驗場
臺北…………臺北州立農事試驗場
宜蘭…………臺北州立農事試驗場宜蘭支場
溪口…………嘉義郡溪口庄游厝試作地
民雄…………嘉義郡民雄庄農業組合試作地
舊南港…………嘉義郡新巷庄舊南港試作地
湖底…………東石郡湖底農事改良實行組合試作地
後潭…………東石郡後潭農事改良實行組合試作地

（二） 生莖葉收量（甲當） 斤

地名	臺農一號	臺農三號	臺農九號	臺農十號	臺農十三號	臺農十四號	標準區白和蘭	比較區青心尾
嘉義支所	12,731	8,976	22,422	19,623	21,443	23,381	17,732	15,698
農業部	23,013	14,824	21,788	21,761	—	—	22,288	—
臺南	12,029	10,324	17,017	22,808	—	—	18,776	14,670
高雄	30,694	26,290	25,176	19,812	—	—	30,160	25,507
臺北	—	11,003	8,973	12,8[illegible]6	—	—	26,956	—
宜蘭	—	17,604	24,664	23,839	—	—	21,574	7,788
溪口	20,617	16,972	19,829	10,297	—	—	9,532	16,204
民雄	12,000	6,000	15,000	10,320	—	—	14,100	7,204
舊南港	24,200	21,300	21,000	23,200	—	—	22,500	18,000
湖底	30,074	27,433	39,756	33,154	—	—	—	35,940
後潭	9,682	9,242	8,362	10,416	—	—	9,536	—

(三) 簽步留 %

地名	臺農一號	臺農三號	臺農九號	臺農十號	臺農十三號	臺農十四號	標準區白和關	比較區青心尾
嘉義支所	33.73	35.27	32.73	30.73	33.66	36.80	30.20	26.25
農業部	29.15	29.25	25.90	27.85	—	—	26.75	—
臺南	36.00	36.30	34.20	30.90	—	—	31.00	25.70
高雄	35.00	33.86	31.10	33.20	—	—	29.40	27.40
臺北	—	32.58	32.63	33.19	—	—	31.63	—
宜蘭	—	26.00	25.00	27.00	—	—	22.00	23.00
溪口	33.00	32.00	32.00	31.00	—	—	20.50	26.50
民雄	30.00	29.00	31.00	31.00	—	—	24.00	24.00
舊南港	33.00	32.00	32.50	30 10	—	—	29.00	27.00
湖底	32.00	—	34.00	30.00	—	—	—	25.00
後潭	32.00	—	34.00	30.00	—	—	30.00	—

(四) 簽生產量(甲當). 斤

地名	臺農一號	臺農三號	臺農九號	臺農十號	臺農十三號	臺農十四號	標準區白和關	比較區青心尾
嘉義支所	15,216	13,866	15,007	14,308	14,902	12,990	10,081	9,095
農業部	10,219	10,574	6,902	10,090	—	—	9,217	—
臺南	13,863	13,366	10,172	13,237	—	—	11,847	10,217
高雄	18,907	19,654	18,105	15,591	—	—	19,687	13,527
臺北	—	6,681	7,946	6,622	—	—	14,477	—
宜蘭	—	6,761	5,623	5,347	—	—	4,744	6,932
溪口	7,783	7,824	9,862	7,511	—	—	2,268	6,479
民雄	8,460	7,656	8,742	8,742	—	—	9,072	7,920
舊南港	14,223	16,115	17,443	14,195	—	—	13,920	10,800
湖底	9,837	—	13,517	9,946	—	—	—	8,986
後潭	8,262	—	12,370	7,570	—	—	8,274	—

(五) 簽生產量指數

(イ) 標準區對指數

地名	臺農一號	臺農三號	臺農九號	臺農十號	臺農十三號	臺農十四號	標準區白和關	比較區青心尾
嘉義支所	152	138	151	144	146	124	100	89
農業部	111	118	82	111	—	—	100	—
臺南	117	113	86	112	—	—	100	86
高雄	96	100	92	79	—	—	100	69
臺北	—	46	55	46	—	—	100	—
宜蘭	—	146	119	113	—	—	100	146
溪口	343	345	435	331	—	—	100	286
民雄	—	—	—	—	—	—	—	—
舊南港	102	116	125	102	—	—	100	77
湖底	—	—	—	—	—	—	—	—
後潭	100	—	150	92	—	—	100	—

(ロ) 比較區對指數

地名	臺農一號	臺農三號	臺農九號	臺農十號	臺農十三號	臺農十四號	標準區白和關	比較區青心尾
嘉義支所	167	152	165	158	151	134	111	100
農業部	—	—	—	—	—	—	—	—
臺南	136	131	100	130	—	—	116	100
高雄	140	145	134	115	—	—	146	100
臺北	—	—	—	—	—	—	—	—
宜蘭	—	100	81	77	—	—	68	100
溪口	120	120	152	116	—	—	35	100
民雄	107	97	110	110	—	—	115	100
舊南港	132	149	162	131	—	—	129	100
湖底	109	—	150	111	—	—	—	100
後潭	—	—	—	—	—	—	—	—

(六) 食味

地名	臺農一號	臺農三號	臺農九號	臺農十號	臺農十三號	臺農十四號	標準區白和關	比較區青心尾
嘉義支所	上の下	上の中	上の下	中の上	上の下	上の下	中の中	下の中
農業部	中	上	中の下	中の下	—	—	中の下	—
臺南	良	良	最良	最良	—	—	良	不良
高雄	中	下	中	上	—	—	下	下

以上試驗及試作地の土壤及施肥量別を示せば次の如し。

地名	土壌	反當施肥量（貫）									
		堆肥	土糞	人糞尿	大豆粕	過燐酸石灰	硫酸加里	燒土	籾灰	藁灰	調合肥料
嘉義支所	壌土	200.000	—	—	10.000	10.000	5.000	—	—	—	—
農業部	埴土	200.000	—	—	—	6.000	—	400.000	—	—	—
臺南	壌質埴土	—	—	—	16 500	6.000	1.800	—	—	—	—
高雄	壌質埴土	200.000	—	—	5.000	5.000	—	—	12 000	—	—
臺北	粘質埴土	200.000	—	—	10.000	10.000	—	200.000	—	—	—
宜蘭	砂質壌土	250.000	—	90.000	9.000	7.000	—	—	—	50.000	—
溪口	壌質砂土	—	320.000	—	10.000	10.000	4.000	—	—	—	—
民雄	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
舊南港	壌質砂土	320.000	—	—	—	—	4.000	—	—	—	—
湖底	埴質壌土	456.000	—	—	—	—	—	—	—	—	7.000
後潭	砂質壌土	—	—	—	38.000	32.000	—	—	—	—	—

四 優良種の特徴

(一) 系統別

品種名	母本	父本
臺農一號	紅皮（支那種）	米國黄皮（米國種）
同 三號	站（支那種）	米國黄皮（米國種）
同 九號	接芋（支那種）	ナンシーホール（米國種）
同 十號	米國黄皮（米國種）	紅皮（支那種）
同 十三號	接芋（支那種）	米國黄皮（米國種）
同 十四號	米國黄皮（米國種）	小縮（内地種）

(二) 鑑別上の主なる特徴

品種名	葉の形狀	生長點葉色	蔓姿勢	塊根		
				皮色	肉色	形狀
臺農一號	戟形	紫綠色	稍々直立	紫紅	黄	塊瘤又は丸形表面突起
同 三號	長心臓形	綠色	匍匐	紫紅	黄	短紡錘形縱溝

品種名	葉の形狀	生長點葉色	蔓姿勢	塊根		
				皮色	肉色	形狀
同 九號	心臓形葉緣波狀齒	綠色	匍匐	白微に紫斑	鮮黄	紡錘形
同 十號	心臓形	綠色	匍匐	白微に紫斑	黄	長紡錘形
同 十三號	缺刻二分の一普通五裂稀に七裂	綠	匍匐	紫紅	黄	短紡錘形良
同 十四號	缺刻深裂普通三裂稀に五裂	綠	匍匐	白	白	紡錘形良

(三) 實用上の特徴

臺農一號 本種は食味良好なるも、形狀不良にして食卓用としては適當ならず。然れども簽歩留高きのみならず、製品の色澤極めて良好にして製簽用品種として特に優秀なり。尚父本たる米國黄皮の特性を稟け蔓稍々直立するを以て、他作物との間作に適す。本種は高雄州岡山郡彌陀庄に於ける試作成績甲當96,235斤の記錄を有す。

臺農三號 本種は短紡錘形にして縱溝あるも、食味佳良にして食卓用に適す。且早熟にして、短期間の輪作に適するを以て此特性を利用すれば實用的價値も亦自ら尠からざるべし。

臺農九號 本種は塊根の形狀良好にして且肉色鮮黄色を帶び、食味良、外觀又良好なるを以て食卓用に最適す。父本「ナンシーホール」の特性を稟けて蔓太く、葉肉厚く、生育旺盛にして養豚の飼料に適す。簽用としては歩留臺農十號に優り、簽生產量臺農一號に次ぐ。本種の特性として特記すべきは霜害に對する抵抗性の強きことにして山間の傾斜地及蕃地等降霜の被害ある地方に於ても相等の成績を收め得べし。各試作地に於ける耕作者の批評を聞くも本種は最も好評なり。本種は高雄州岡山郡彌陀庄に於ける試作成績甲當 91,440斤臺南州東石郡灣内陳鳥番氏の試作成績甲當 119,316斤の記錄を有す。

臺農十號 本種は品質他に比し稍々劣るも塊根の收量 6 種中最高にして、形狀又概して良好なるを以て生藷として利用するも可なるべ

く、籤用品種としては歩留高からざるも、籤生産量臺農三號及臺農十四號に優る。

臺農十三號　本種は短紡錘形にして形狀良好食味佳良なるを以て食卓用として好適するのみならず、塊根の收量多く、且籤步留33.66%に達するを以て製籤用として優良なり。又莖葉の生育旺盛なるを以て養豚飼料として利用し得べし。

臺農十四號　本種は塊根の收量前者に及ばずと雖も乾物量極めて多く籤步留36.80%に達し、籤の品質良好にして製籤用として優秀なるのみならず、塊根の形狀紡錘形にして皮色白色、肉粘質にして甘味に富むを以て、又食卓用として良好なり。尚莖葉の生育前種に比し更に旺盛なるを以て好個の養豚飼料たり得べし。

第一圖版

I　臺農一號

A　塊根（不整形）

B　同上斷面

C　葉

II　臺農三號

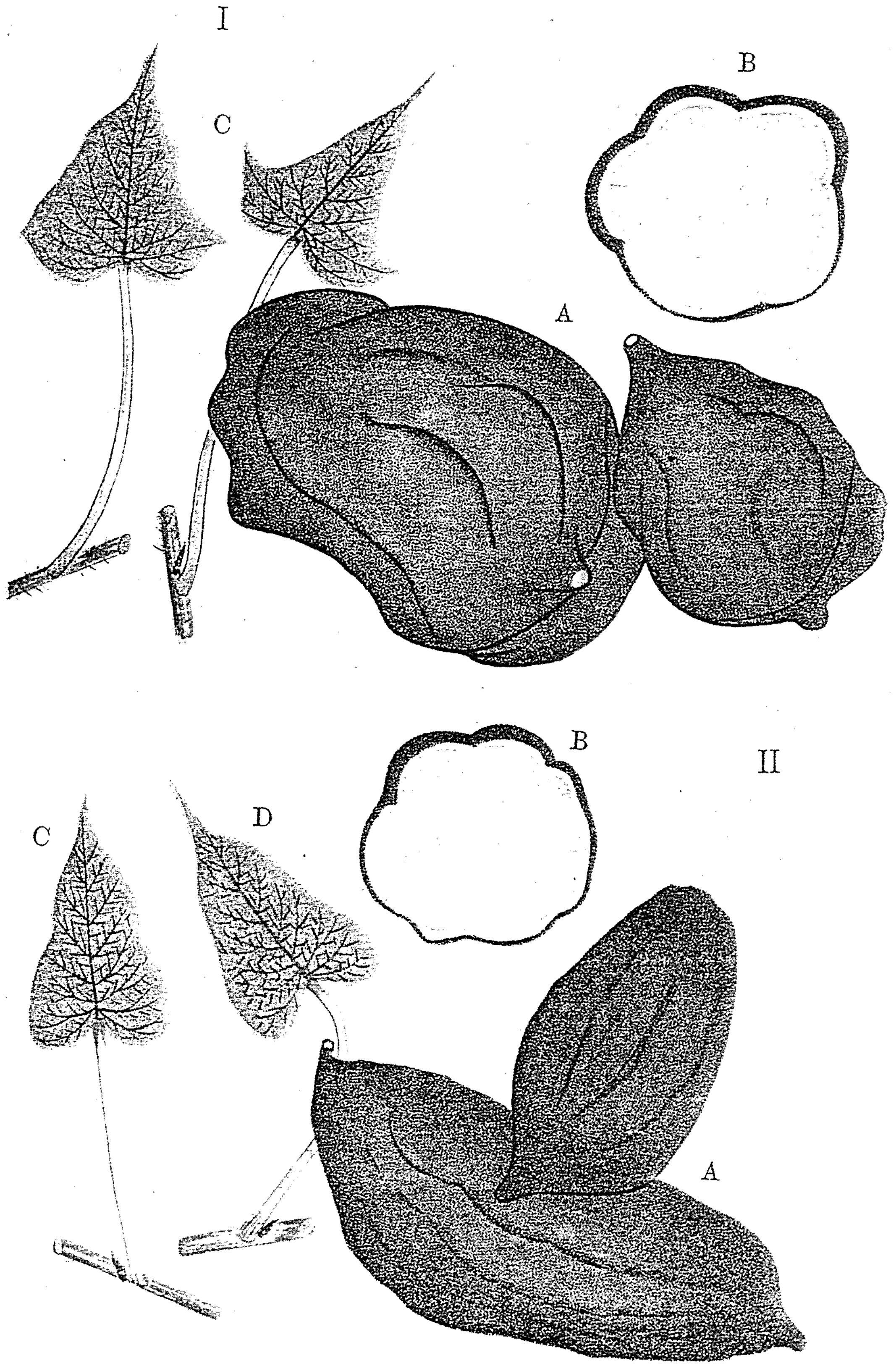
A　塊根（縱溝アリ）

B　同上斷面

C　葉（表面）

D　葉（裏面）

第一圖版



第 二 圖 版

I 臺農九號

A 塊根

B 同上斷面

C 葉

II 臺農十號

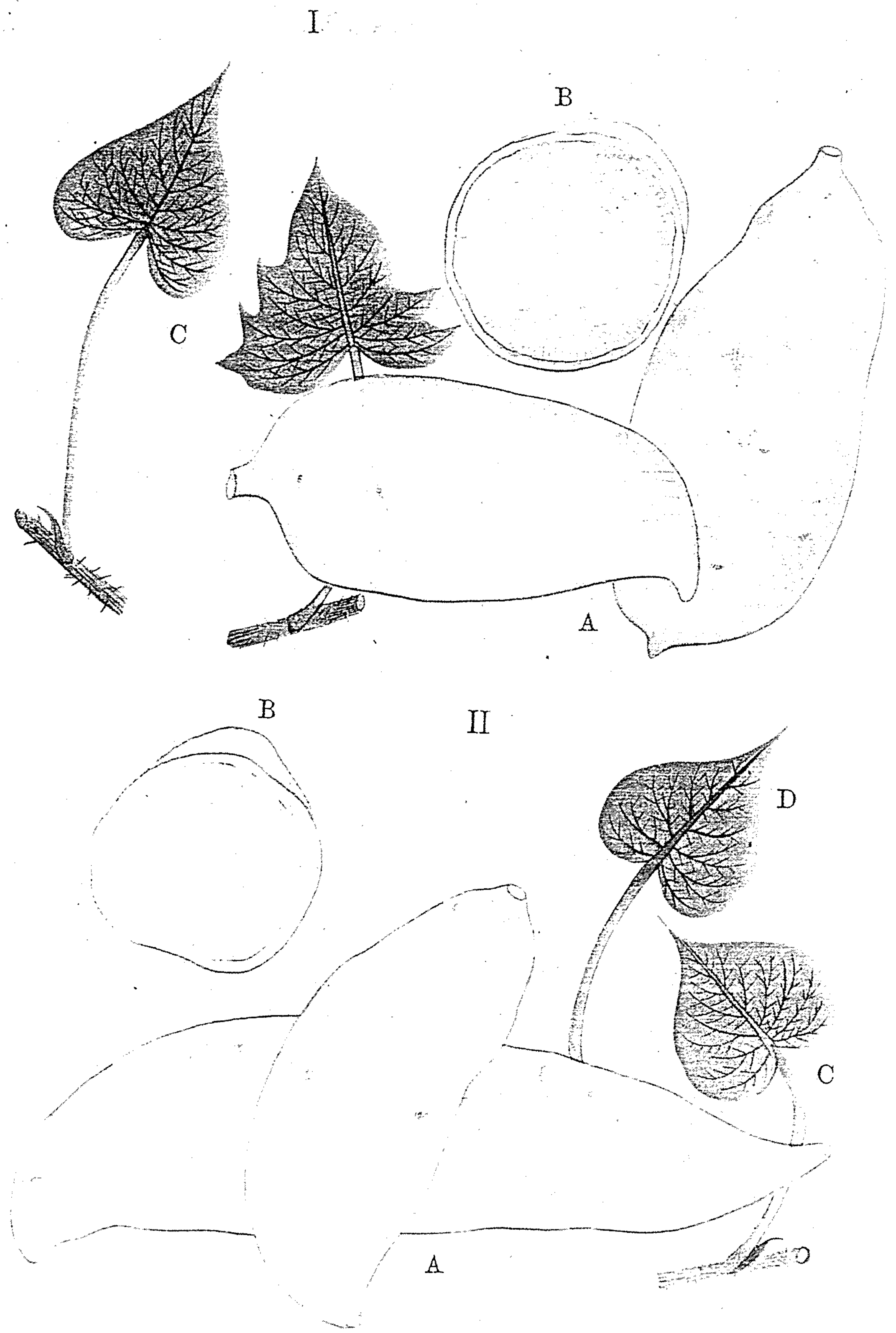
A 塊根

B 同上斷面

C 葉（表面）

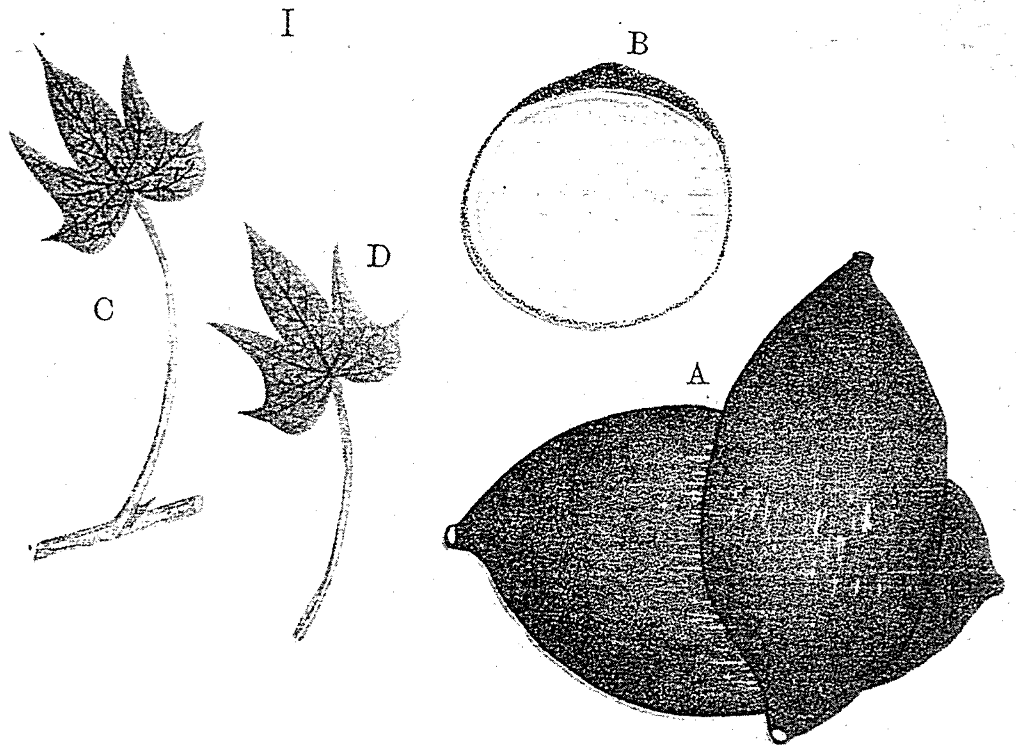
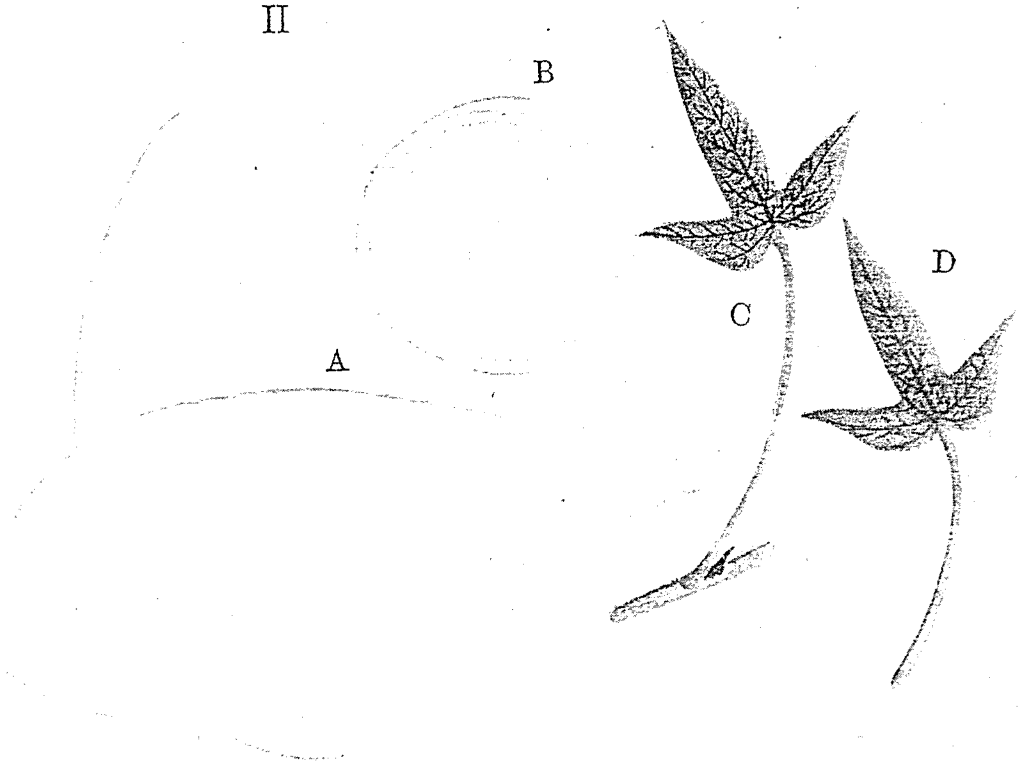
D 葉（裏面）

第二圖版



第 三 圖 版

I 臺農十三號
A 塊　根
B 同上斷面
C 葉（表面）
D 葉（裏面）

II 臺農十四號
A 塊　根
B 同上斷面
C 葉（表面）
D 葉（裏面）

第三圖版